

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市榴岡児童館
2 指定管理者	特定非営利活動法人せんだい杜の子ども劇場
3 指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和6年度 55,062人(前年度比 111.0%) 令和5年度 49,589人 令和4年度 45,442人
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 89,683千円(85,946千円) ・ その他市が負担した費用 0千円(0千円)
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円(0千円) ・ その他収入 0千円(0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館地域連絡会、児童クラブ保護者懇談会を実施。

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	31/31
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、保護者会をはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人せんだい杜の子ども劇場）による自己評価》
①子どもの参画の場として「子どもスタッフ会」は一年を通しての活動となり、その子ども力は大人を動かすレベルに到達しつつある。子どもによる子ども主体の企画運営が更に進み、地域や学校と共に子どもたちが社会に参画する醸成に努めることができた。児童クラブ内でも子ども主体による企画実施や自分たちでルールを決めるなど子ども参画力が高まった。②学年毎の行事は年齢に応じた子どもの体験幅を広め、ハロウィン、乳幼児・小学生向け共に地域密着型パレードとして定着した。③東北の造形作家を支援する会との協働ワークショップ「そあとの庭」に対する子どもや保護者からの評価が高い。④榴岡小との協働のもと、PTA・学校支援本部・児童館による定例会議「ほっとぼっと倶楽部」は3年が経過したが、子ども理解の共感が増ただけでなく、地域公開セミナー（5回）は4者で取り組む子どもと大人が共に学ぶ機会として定着。セミナーには思いに共感した脳科学者やアーティスト、アスリートが講師となっており大変有難い。⑤地域内子育て支援グループと共に9回シリーズの子育て講座を行った。乳幼児から中学生を持つ親が自分と向き合い対面で分かり合える場となったので、次年度は多世代子育てサロンを具体化したい。⑥諸訓練と館内外の安全点検、コンプライアンス強化、職員研修に力を入れた一年であった。⑦地区防犯協会、駅東口交番、警察署の協力で行った不審者対応訓練には近隣の保育園等も参加し、相互の防犯意識を高めることに貢献できた。⑧地域内世代間交流の場として児童館まつりが復活し400名が参加、児童クラブ保護者会や父親たちが集うTOTTO THE CLUB、地域諸団体が子どもスタッフ会の要請を受けブース等を担った。⑨大規模児童クラブは4登録場所共に最善を尽くし運営した。⑩アンケート回収率が上がった！本音が言える場所になっていると察する。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
児童健全育成事業においては、中高生世代が、小学生との遊びを通じた異年齢交流や、職員との関わり、くつろぎを求めて来館しており、地域におけるこどもの居場所となっている。また「子どもスタッフ会」はこども達が児童館まつりや子どもまつり等の企画運営をアイデアを出し合い協力しながら行っており、達成感を得るとともに協調性や社会性を育んでいる。 子育て家庭支援事業においては、乳幼児向け救命講習やリトミック等、多様な内容で「つつじがおかサロン」を開催している。民生委員や児童委員、区の保健師等が参加して子育て相談の機会を定期的に設けており、地域の関係機関と連携を図りながら子育て家庭を支援している。また子育て支援クラブの協力を得て食育講座や季節のイベント等を開催した他、「ママココフェスティバル」を地域の関係団体、関係機関と連携して開催し、参加者同士の交流を広げる拠点としての役割を果たしている。 地域交流推進事業においては、地域の関係団体、関係機関とのネットワークを活用した事業が展開されている。児童館、榴岡小PTA、榴岡小学校学校支援地域本部、校長先生による定例会「つつじがおかほっとぼっと倶楽部」の共通認識のもと、共同でセミナーを開催し、小学生と地域の方向けの多様な行事や体験活動を提供しており、地域の世代間交流を通して、こども達の豊かな人間性や考える力を育てている。 放課後児童健全育成事業においては、支援単位毎の登録を学年バランス等を考慮した上で決定し、担当職員が日々丁寧に関わりながら支援している。また本館・サテライト毎の集会は、こども同士が自由に発言したり意見を聴き合える場となっており、こどもの主体的な遊びや生活が可能となるよう支援している。	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課